



都城市の庄内地区まちづくり協議会は、県の「宮崎ひなた生活圏づくり」ワークショップ実施地域に選ばれ、地域の将来の人口予測がわかる「ひなたまちづくり応援シート」を活用しながら、地域の将来の姿や課題等を認識・共有し、住民間で議論し、地域の将来を考えるワークショップに取り組んでいます。今回は、9月・10月に行われた2回のワークショップの様様をレポートします。



宮崎ひなた生活圏づくり  
ワークショップ  
～都城市庄内地区～

庄内地区  
まちづくり協議会

都城市では、個人では対応しきれない課題を解決したり、世代間交流を図ったりする地域コミュニティの充実や強化のため、協働のまちづくりを推進しています。その柱として、地域住民が中心となって、身近な課題を解決したり、将来あるべき姿を検討したりする、「まちづくり協議会」の運営に対し、財源（我がまち交付金の交付）・権限（地域に用途を決めさせる）・人間（段階に応じた職員支援）の「3げん」で支援しています。

市内15地区のまちづくり協議会がそれぞれ積極的に活動していますが、庄内地区は平成28年に県内初となる市民協働型コミュニティバス「庄内ふれあい号」を導入し、路線設定や運行管理、運転手の確保などの運営のすべてをまちづくり協議会が担うなど、特色ある取組を行っています。

ひなたまちづくり  
応援シート

人口減少に伴って将来的に起こりうる課題の共有や今のうちから始める地域の取組について話し合うきっかけをつくるため、県では昨年度「ひなたまちづくり応援シート」を作成。今年度、中山間地域を中心に数カ所シートを活用したワークショップを実施しています。

ひなたまちづくり応援シート

概ね小学校区や中学校区の単位でこのことができます。

ホームページ「宮崎中山間ネット」からシートをダウンロード（エクセル形式のため、一旦ダウンロードすればネット接続なくても使用可能）

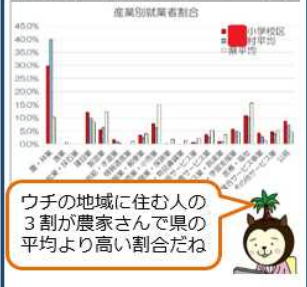
①10年後、20年後の人口予測がわかります。



②移住者を受け入れた場合の人口予測シミュレーションができます。



③地域の特徴がわかります。



## 第1回 ワークショップ

9月5日（木）の夜、庄内地区公民館で開催された第1回。

40名を超える地区住民や都城市社会福祉協議会の職員の方などが参加され、第1回目のワークショップが行われました。まず進行役の（株）アップスの山下さんが庄内地区のクイズを出し、5つのグループごとに答え考えたり、10年前に比べるとどういふ変化があったか感じていることを話合ったりしました。そして「ひなたまちづくり応援シート」で庄内地区の10年間の変化をデータで確認し、その後、将来予測シートの説明を受け、人口減少や高齢化がこのまま進んだ場合、庄内地区の将来はどうになってしまうのかをグループごとに話し、課題を共有しました。

参加者の皆さんの熱心な議論に、庄内地区を守りたい、盛り上げたいという熱意を感じました。



## 第2回 ワークショップ

10月2日（水）ワークショップ2回目。

まず、庄内地区の人口推移等のグラフ等で庄内地区の「今」の確認と各グループから出された課題や不安等をまとめた一覧表を見ながら、前回のワークショップを振り返りました。そして、今後どのような活動や助け合いが大切かを話し、アイデアを出し合います。話し合う前に、ヒントとして山下さんから他の地域での取組事例が紹介された後、各グループでアイデアを出し合いましたが、どのグループも活発な議論が行われていました。

最後にアイデアの中から、自分たちでできる取組・すぐにでもできる取組、時間がかかったり行政の力が必要だったとしても腰を据えて長期的に実施しなければならない取組などを検討し、各グループ3つのアイデアを選びました。空き家を活用した子どもが集える集会所、1人1役でたくさんの人に役目を与える、自然を活かした観光開発、ふれあい号の便数増加など、いろいろなアイデアが発表され、参加者の皆さんが他のアイデアに頷き、興味深く聞き入っておられました。ここからどのような取組が生まれ、展開がされていくのか大変楽しみです。